

厚生常任委員会視察研修報告書

視察地： 関東方面

視察先： 東京都千代田区、神奈川県大和市

実施日： 令和4年7月12日(火)～7月14日(木)

旅 費： 476,360円

【視察目的】

- 1 厚生労働省
 - (1) 地方における医師・看護師の確保対策について
 - (2) 二次救急医療体制について
- 2 公益社団法人 地域医療振興協会
 - (1) 地方での医療人材確保について
- 3 神奈川県大和市 大和ゆとりの森
 - (1) 地域における公園の機能と活用について

【視察結果】

地域での医師偏在、診療科偏在対策に関し、国の取組の説明を受けた。

医学部の入学定員、地域枠の定員は年々増加しており、将来的には医師の数は必要数を上回るが、地域での医師不足には対応の必要がある。その対応策として、医師養成課程の地域枠から、9年間の養成期間を経て、医師がその県に定着するしくみを作っている。臨床専門研修において、県ごと・診療科ごとの人数の設定で、都市部への医師の集中を回避する。また、県のキャリア形成プログラムにおいて、医師少数区域で一定期間勤務した場合、認定医師として評価する制度があるとのことであった。愛媛県には医師少数区域はなく、県独自で医師少数スポット（愛南町・久万高原町）を指定しており、このプログラムを利用して医師派遣の支援を受けることができるとのことであった。

地域における看護師不足については、看護師養成所への財政支援、ナースセンターによる復職支援、院内保育の整備・勤務環境整備等による看護師の定着支援の施策の説明があった。看護師数は、年々増加傾向にあるが潜在看護師も多く、近年は病院から高齢者施設等へと就業先が変化している。県ごとに設置されているナースセンターから紹介を受け、ワクチンの接種業務従事をきっかけに復職につながるケースが増加傾向にあるとのことであった。

二次救急体制に関しては、統計データによる現状の説明と施策についての説明があった。救急搬送後、入院となった高齢者については、退院後の受け入れ先を確保することにより、二次救急病院の負担を減らす必要がある。統計データでは、救急車の受け入れの少ない、小さい病院もあるが、その病院も地域で担

う役割は大きく、人手の確保、資金の補助がポイントになるとのことであった。

2. 全国の病院等の施設運営、地域への医師派遣等支援、地域医療に必要な「総合医」の養成を行っている地域医療振興協会の取り組みについて説明を受けた。医師派遣事業については、過疎地域の指定等は不要で、病院から照会・申請書提出の後、審査を行っており、緊急の場合の対応もしているとのことであった。

地域では、何でも対応してくれる総合診療専門医が必要だが、数は不足しており、協会でも派遣要望に対応できないケースも増えている。また、協会への運営委託の場合、近くにネットワークを作れる病院、診療所、また拠点となる病院がある場合は、診療面、人事面で運営がスムーズであるとのことであった。

多くの自治体が市町村合併により病院の協議が後回しになり、後での整理が難航している。形態を変えていかないと運営は難しく、財政状況と住民の理解が必要となっているとの説明があった。

3. 無料で利用できる公園として関東圏でも人気がある大和ゆとりの森公園において、担当課、指定管理者による説明を受けた。

厚木基地、飛行場に隣接し、施設整備に関しては75%が防衛省の補助金によるものであり、4社のパートナーズによる指定管理施設となっている。

公園内の遊具設置のエリアでは、対象年齢ごとにゾーン分けされ、体力やチャレンジ精神の醸成につながっている。安全に配慮された遊具下面は、3段階にわけたクッション性のあるゴム素材で作られており、事故と遊具の破損の防止の効果があるとのことであった。

また、高齢者対象に11基の健康遊具が設置され、理学療法士により専門的な指導を行っている。あわせて、市内の100カ所の公園に健康遊具を4年間かけて設置、散歩コースをかねた健康遊具めぐりが高齢の方の公園利用と健康づくりにつながっているとのことであった。

トイレやシャワールーム、会議や室内運動にも利用される管理棟は、休憩場所として手書きの案内や掲示がされており、子ども達には好評とのことであった。また、災害時の避難所としても利用され、公園内の敷地の一部は大雨の際の遊水地として整備されている。

【視察効果及び西予市での応用】

1・2. 医師、看護師などの考え方に、都市部と地方のギャップがあり、へき地での勤務を希望する医師は、非常に少なく医師確保の難しさを感じた。様々な条件からも医師の確保はきわめて困難であり、医師確保に関して市独自の工夫はより必要である。

二次救急の一本化については本市の課題であり、地域の医療を確保するため、住民の理解をえるよう努めたい。

3. 施設の内容、遊具に関しては計画の段階から住民の意見を取り入れ、また開設後も利用者へのアンケートをとるなど、改善点を洗い出し、運営に反映するしくみを作っている。

ふわふわドーム等のような人気遊具の設置、健康遊具を設置するなど、誘客への取り組みが、市内外の幅広い年連層からの利用、継続的な人気につながっている。健康づくりの面からも、このような公園が西予市にも必要であると考ええる。

令和4年9月12日

厚生常任委員会
委員長 竹崎 幸仁

1. 厚生労働省にて (R4. 7. 12)

(1) 地方における医師・看護師の確保対策について

(2) 二次救急医療体制について

【講師：厚生労働省 地域医療計画課、医事課、看護課】



2. 公益社団法人 地域医療振興協会にて (R4. 7. 13)

(1) 地方での医療人材確保について



3. 神奈川県大和市 大和ゆとりの森公園 (R4. 7. 14)

(1) 地域における公園の機能と活用について

【講師：大和市みどり公園課・大和ゆとりの森】

